

近現代文学野の中で「純文学」として、夏目漱石のこゝろ、「歴史・時代小説」として、樋口一葉のたけくらべを読んだ。

まずは、夏目漱石のこゝろについてまとめる。この作品は、時系列として明治時代の中であり、「先生と私」、「両親と私」、「先生と遺書」の三章から成り立っている。

第一章「先生と私」では、人生の生きがいを見つけるために上京した私が、自分を特別な存在だと思い、生活をしていて、ある時鎌倉の海岸で先生と会う。そこで、独特な雰囲気を持つ先生に惹かれ人生の教訓をこの人から学びたいと思うようになる。先生は無職で、親の財産で妻と二人で生活しており毎月一回友人の墓参りをしており、この友人が亡くなる前の先生は、明るく頼り甲斐のある人物であると妻が言うシーンがあった。友人が亡くなってからは、人を信頼しない孤独な生活をするようになりそのことで私の先生に対する興味は増していったのだ。私が大学を卒業すると、先生に近況を報告するために家を訪れた時、先生は私に対して、「親の財産が少しでもあるなら今のうちに始末しておきなさい」を助言した。

第二章「両親と私」では、父の病態の悪化の応報を受け一度実家に帰省するが、父は元氣だった。しかし、数日後に天皇陛下崩御のお知らせを聞くとたちまち病状が悪化し、衰弱していった。そこで父は「明治と共になら本望」と言った。そんな時に、先生から「この手紙があなたの手に落ちている頃には、私は死んでいる」と書かれた大量の分厚い手紙が届き、父親の病状にも関わらずに先生の元を訪れるために先生の元へ向かった。その道中で手紙を読み進めるが内容は凄まじいものであった。

第三章「先生と遺書」では、その手紙には先生の遺書が書かれていた。大学在学中に両親を失った先生は、叔父に全ての遺産を食いつぶされ、そこから人間不信に陥ったのである。その後、下宿を始め、大家の娘であった現妻と出会った。次第に恋をした。しかし、友人Aが貧しい生活をしていたので救うために友人Aと同棲をした。その最中に、Aが先生に娘が好きだと言うが、Aに娘を奪われることを危惧した先生は「精神的に向上心のない者は馬鹿だ」と言った。焦った挙句、すぐに母親に「娘さんを下さい」と懇願し、結婚に至った。しかし、結婚の応報を聞いた友人Aはショックを受け自殺したが、遺書には先生への恨みは書かれていなかった。先生は、Aの自殺の経緯を知る唯一の人物として、ただ一人苦しんでいたが、明治天皇崩御の知らせを聞いて、「明治の精神と共に」逝くべく、遺書を書くことに決めた、手紙に書かれていた。手紙の末文には、「この打ちあけられた私の秘密はすべてあなたのこころにしまっていてください」と書かれていた。

この作品を読み、ちょうど明治時代は開国した時代で、海外の文化が徐々に浸透してきた時代であった。その文化の代表的なものに、古典的な日本の精神には無かった価値観であるエゴイズムがあり、それは、今回であれば先生が友人Aの自殺へ抱いていた感情である。新しい文化が輸入された時に著者の夏目漱石は、この新しいエゴイズムは先生のように苦しみを背負う人間を増やす原因となると考えたのかもしれない。

次に、樋口一葉のたけくらべについてまとめる。この作品も明治時代に書かれており、主人公は、大人になると遊女になることが決まっている吉原に住む十四歳の女の子である美登利と、将来は僧侶になるまじめな信如である。子供の頃、美登利は正太郎という少年とよく遊んでいたが、実はこの信如への好意を抱いており、ある日の運動会で木の根につまづいた信如を見た美登利はハンカチを信如へ渡そうとした。それを見ていた周りの同級生が、二人をからかったことにより、信如は噂になることを嫌がって美登利を無視し始めたことから、心はすれ違い始め、お互い好意を持ちながらも遠ざかっていってしまった。そんな時に、美登利が髪を島田髪に変えられ、吉原で遊女になっていくと気づいていき、困惑していき、誰とも遊ばずに家で引きこもりになってしまった。そんな時に、信如が吉原から離れた仏学校へ転校する前日に、美登利の家に水仙の造花を投げ入れ、美登利は誰が投げたのかわからなかったが、懐古の気持ちを感じ出し、それを部屋に飾った。という話である。

この作品は、美登利と信如の心理描写が絶妙に現れており、恋物語として述べられている。「源氏物語」は光源氏が多くの人を作る過程で、本当の自分を見つけないという話だが、対照的に美登利と信如の二人の心理描写を描いている。また、明治時代の作品であるが故、日本文学の主流である源氏物語とは違い、あまり身分が中心となった描写ではなく、時代相応の淡い恋物語が描かれていた印象を持った。

これら二つの夏目漱石のこゝろ、樋口一葉のたけくらべという作品の関係は、同じ明治時代中の作品であるが、時代の捉え方の視点が異なっていると感じた。日本文学の主流として、ふさわしい作品であると思った。